

日本衛生学会会員のみなさまへ

自治医科大学 医学部  
環境予防医学講座  
教授 市原佐保子

日本衛生学会理事長に立候補するにあたり、所信を申し上げます。

私は、循環器疾患における遺伝要因に興味を持ち研究を開始しましたが、研究を進める中で、疾患発症には環境要因が大きく影響していることを実感しました。そこで、留学先で実験研究の考え方と技術を身に着けた後、食事や労働などの生活習慣を含めた環境ストレスによる生体への影響とその機序を、実験医学的方法や疫学的方法を駆使して明らかにしてきました。ゲノム(体質)と環境因子の両側面からのアプローチによる研究を実践してきたことが評価され、2025年度日本衛生学会学会賞を受賞いたしました。環境医学・予防医学をはじめとする衛生学分野の発展に貢献していきたいと考え、その責務を主体的に担うべき、このたび日本衛生学会理事長に立候補いたしました。

日本の衛生学は、近代実験医学の黎明とともに発展した欧州衛生学の影響を受け、個々の疾病への対処にとどまらず、環境要因を社会的な仕組みで制御することで疾病を予防するための科学的根拠を提供する学問として確立され、日本衛生学会も100年の伝統を迎えました。衛生学は創設時の歴史的経緯のために、疫学とともに実験医学的要素を含むという特徴があります。近年、グローバルな社会環境の急速な変化に伴い、健康リスクが多様化・複雑化し、研究領域も拡大しました。それを受けて、社会実装を視野にいたした衛生学および衛生学会の役割は更に重要となっています。医学生物学の発達とともに、衛生学も分子生物学やバイオインフォマティクスなど、新たな手法を取り入れ、疾患の予防に貢献する時代になりました。私は、日本衛生学会の将来像を明確に描き、将来を見据えた活動の計画・実施を推進し、衛生学会の持続可能な発展に努めていきます。

地球規模の環境変動および社会経済的変化に伴う社会課題に対し、学会としてこれまで以上に発信力を高める必要があります。また、学会誌の収入と歴代理事の先生方のご尽力により、本学会の財政は比較的安定していますが、一般会員数は約千人で頭打ちであり、若手一般会員が増えていないという課題が挙げられます。衛生学会の持続的発展を図るために、下記の重点項目を軸に活動を展開します。

### 《魅力あふれる衛生学会に向けて》

衛生学は、環境衛生、産業衛生、食品衛生、分子疫学、毒性学など多分野にまたがります。持続可能な発展のため、「衛生」を中心とした学術の進歩を図ります。そのために、他学会・研究会および医学会連合との連携、さらに社会医学系専門医制度との協働体制を深め、相互活性化を推進してまいります。衛生学会に入会することで、新たな学びの機会と学術的ネットワークを築ける環境を提供します。

### 《社会的責任の遂行に向けて》

社会課題の解決を図るためにも、衛生学会特有の衛生学エキスパート制度を周知し活性化していきます。また、社会への提言につながる委員会を設置し、定期的な提言の発出を通じて、学会の社会的貢献活動を戦略的に推進します。

### 《学会誌:EHPMの発展》

学会誌である Environmental Health and Preventive Medicine (EHPM)への、国際共同研究論文および総説論文等の積極的な掲載でインパクト指標の向上はもちろん、衛生学分野における世界トップジャーナルとしての地位の確立を目指します。若手研究者の編集委員への参加とベテラン研究者の論文査読の協力を進め、EHPMを出版している学会として活気あふれる学会運営を心がけます。

### 《若手研究者の育成と確保》

学会の持続可能な発展には、衛生学を志す若手研究者の育成・確保が欠かせません。他分野からの日本衛生学会への入会も視野に入れ、他分野との学問的融合を促進します。学会発表・論文投稿や国際交流の機会を増やす若手支援の強化に取り組み、学会活動の魅力を高め、新たな人材が活躍できる環境を整備します。

私は、2015年よりEHPM誌編集委員を、現在は理事を務めています。大学内では、産業医、化学物質管理者、環境問題委員会委員長などの専門性を活かす職務以外に、入試面接検討委員会委員長、医学研究科広報委員会委員長、医学研究科幹事会幹事などの要職を任されるなど、組織マネジメント力が評価されています。前大学では学部の垣根を越えて設置された地域イノベーション学研究科に所属しており、学際的連携の重要性を認識し、実践してきました。

新理事長を拝命しましたら、『伝統を礎に、世界水準の研究で次代を拓く』をキャッチフレーズに、学会員のみなさまの声に耳を傾け、新理事の先生方と力を合わせ、日本衛生学会の持続可能な発展に向け、尽力する所存です。